

おお おお くわ

議会だより

第144号

平成28年
4月28日発行

3月定例会	
平成28年度予算審議	2
一般質問	
8名が登壇、村政を問う ...	8
議員と語る会	
住民の皆様の声	16



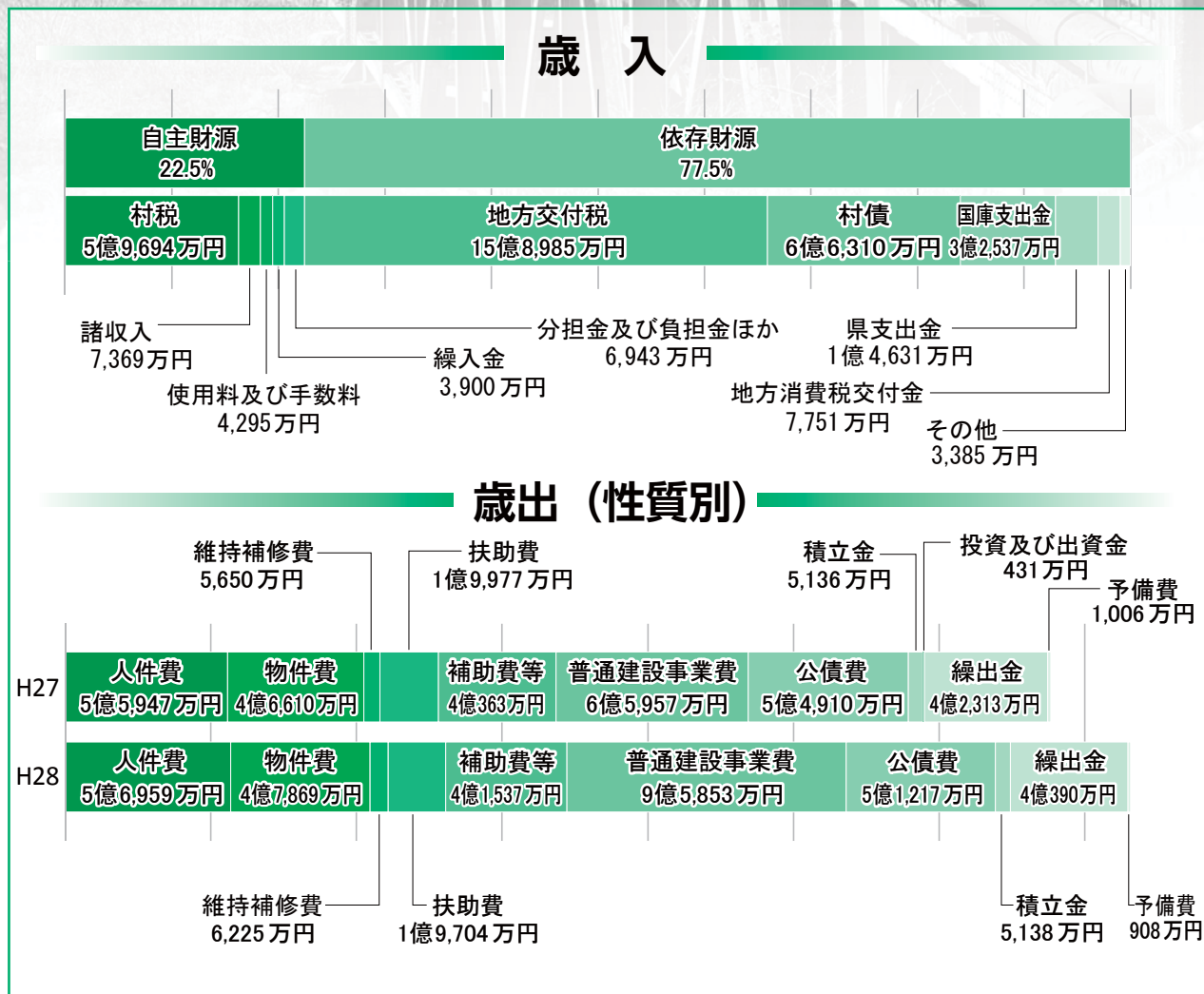
小学校6年生 3月定例会傍聴
(3月8日)

28年度予算

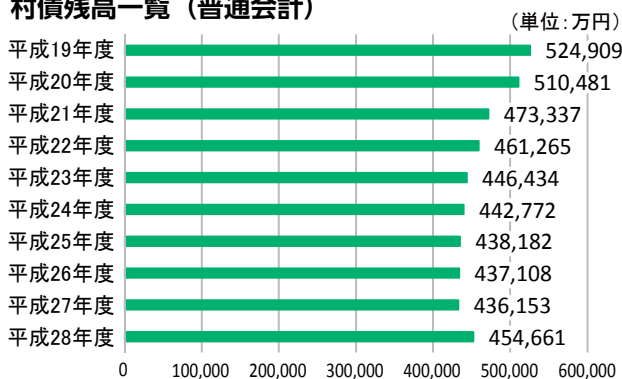
一般会計

前年度比8.1%増

36億5,800万円を可決



村債残高一覧（普通会計）



28年度末村債残高

前年度比 1億8,500万円増

平成20年度以降減少してきた村債残高は、28年度大型事業に着手するため、前年度と比較し大幅な増額となります。

道路や大規模施設の建設には多額の費用がかかり、その年の収入だけで賄うことができないため、村債として国などから資金を借り入れる必要があります。

しかし、村債は借金であり、将来必ず返済しなければなりません。村債残高の増加が財政運営の硬直化につながらないよう、総合計画や実施計画に基づき事業が計画的に実施されているか注視しなければなりません。

新年度予算審議

歴史民俗資料館

Q 村民の入館料徴収の対応が曖昧ではないか。

A 条例上は入館料を設定しているが、減免措置を適用している。分かりにくい部分があるので、今後の措置を検討する。

中山間地域等直接支払制度交付金

Q 交付金の取止めがあったと聞く。中山間地域を守っていくために必要な交付金であり、荒廃地化に結び付きかねない。どのような経緯か。

A 5年間という協定期間があり、高齢化によりその期間を全うする自信がないという理由である。交付条件が高齢者にとっては、厳しいものとなっている。補助金はもらわないができる限り頑張りたい

とのことである。

庁舎建設基本設計料

Q 28年度の基本設計は、時期が早いので、これを削除し、1年先延ばしたらどうか。

A 今後の財政計画や設計図面があった方が、住民の皆さんも議論がし易い。又、基本設計を基に、目途を立てなければならぬ事項もある。この観点から、28年度中には、基本設計に入りたい。

Q 住民の意向が基本設計と違い変更する場合、設計料の追加の必要はないか。

A 変更を前提としての契約となる。基本的には追加の必要はない。

Q 設計業者の選定方法は。

A 指名によるプロポーザル方式としたい。

Q 何社を指名する予定か。

A 7社程度と考えている。

Q 審査委員会は設置するのか。

A プロポーザルの審査委員会を設置する。

庁舎建設基金

Q 基金の積立が、当初予算5千万円では、建設予定年度の平成32年度までに目標額である10億円に達しない。どのような計画か。

A これまでの実績から、年度当初5千万円の計上であるが、例年決算額では、それ以上の額を積み立てている。決算繰越金や交付税の増加分などを、庁舎建設基金へ積み増しする。

須原駅公衆トイレ

Q 景観に配慮し木造が良いとの声が大きいが、設計はどうなるのか。

A 木造で、景観に配慮し、昔の宿場をイメージした外観となる。

弁護士費用

Q 弁護士費用150万円の内容は。

A 行政不服審査法関係84万円、顧問弁護士12万円、川向山林の住民監査請求関係22万円など。

林地開発

Q 太陽光発電の増設を県に申請し、村は、県に対する意見書を提出したとの報告があった。この用地は、村有地との関わりは、無いのか。

A 村有地との関係は無い。

総合戦略推進評価委員

Q 総合戦略推進評価委員の業務内容は。

A 今後5年間、総合戦略の評価検証に当たる。

27年度補正予算

老人福祉施設

Q 老人福祉施設の負担金が減額となっているが理由と施設待機者数は。

A 負担金の減額は入所者2名の減による。養護老人ホームの待機者は、郡全体で25人、村は3人。

阿寺溪谷案内板

Q 阿寺溪谷の案内板680万円余の事業内容は。

A 溪谷内に数カ所ある案内板を英訳併記して立て替えるもの。

宅地分譲地

Q 沓垣外分譲地の現在の状況は。

A 1区画は分譲が決まっている。残りの区画は来年度引き続きPRしていく。

有害鳥獣対策

Q 有害鳥獣の今年度の状況は。

A 2月末現在、サル

除雪費用

Q 除雪費について、今年度は除雪回数が少なかった。業者の維持管理費が負担となるが、対応できないか。

A 村は除雪管理費として4ヶ月分の負担をしている。当初の除雪会議で業者との合意ができていたので当面変更はない。

54頭、シカ23頭、イノシシ69頭、その他77頭。

平成27年度 会計別補正予算

会 計 名	補 正 額	補正後の総額
一般会計	2,905万円	35億7,554万円
村営水道事業特別会計	△ 258万円	2億4,180万円
国民健康保険事業特別会計	1,268万円	4億3,285万円
農業集落排水事業特別会計	△ 117万円	9,534万円
公共下水道事業特別会計	△ 184万円	9,946万円
後期高齢者医療事業特別会計	112万円	6,486万円

こんなことが決まりました

あてら荘指定管理者 4月1日から (株)塚原緑地研究所 (千葉県) に

指定管理者の指定

※指定の期間 平成28年4月1日～平成33年3月31日

施設名	指定管理者名
●老人デイサービスセンター	大桑村社会福祉協議会会長 佐藤 卓祥
●地域活動支援センター	大桑村社会福祉協議会会長 佐藤 卓祥
●特産物販売施設 (木楽舎)	大桑村地場産業振興センター 代表取締役 荻村明男
●阿寺農産物加工販売所	阿寺農産物加工販売組合 組合長 林ちかる
●木材工芸品等加工販売施設	木挽の里協同組合 代表理事 今村弘行
●木曽ふれあいの郷	(株)塚原緑地研究所 代表取締役 塚原道夫

条例改正

- 一般職の職員の給与に関する条例
- 議会議員の議員報酬に関する条例
- 特別職の職員の給与に関する条例
- 行政手続条例
- 情報公開及び個人情報保護に関する条例
- 特別職の職員で非常勤の者の報酬に関する条例
- 固定資産評価審査委員会条例
- 手数料徴収条例
- 職員の分限に関する条例
- 人事行政の運営等の状況の公表に関する条例
- 職員の勤務時間及び休暇等に関する条例
- 一般職の職員の旅費に関する条例
- 税条例
- 入湯税の課税特例の見直し

- 福祉医療費給付金条例

給付対象を妊産婦まで拡大

- 木曽ふれあいの郷設置条例

施設から「恋路の湯」を除外

その他

- 過疎地域自立促進計画 (平成28年度～平成32年度)

- 村道路線の変更

- 木曽広域連合規約の変更

- 木曽広域連合ふるさと市町村圏基金に係る出資金の権利一部放棄

- 中尾平工場団地土地売買契約

面積

19,266㎡

契約予定額

4,816,500円

契約の相手

(株)IHターボ

代表取締役社長

満永 敬哉

人事

- 固定資産評価審査委員の選任

大桑村野尻

丸田 富美子 氏

同氏の再任に全会一致で同意

陳情

- 軽度外傷性脳損傷・脳しんとうの周知と予防、その危険性や予後の相談の出来る窓口などの設置を求める陳情

陳情者

軽度外傷性脳損傷仲間の会代表 藤本久美子

結果

全会一致 採択

(訂正とおわび)

議会だより143号12ページに次のとおり誤りがありました。おわびし訂正いたします。

選挙管理委員会補充員 (誤) 古瀬 直史氏 (正) 古瀬 直文氏



今日から小学1年生

総務社会 常任委員会報告

◎2月26日開催

▼平成28年度事業について

総務課、庁舎建設準備室、住民課、福祉健康課、教育委員会の各担当者にそれぞれ説明を求め、質疑応答を行った。

新規事業は、防災行

政無線デジタル化整備事業、須原駅前公衆トイレ建築事業、消防車購入事業、デイサービスセンター床等改修工事、福祉医療給付費の妊産婦等への拡大、ながの子育て家庭優遇パスポートの全国共通展開、本年3月に増改築工事が完了する歴史民俗資料館における新規企画展、生涯学習事業

として80歳を対象とした「傘寿座談会」等について事業内容の説明を受けた。

3月定例会前に所管する事業計画の説明を受けることは、初の試みであったが予算審議を行う上で重要である。有意義な質疑の準備を進めたい。

(報告者 鈴木 武)

経済建設 常任委員会報告

◎2月24日開催

▼フォレスパ木曽指定

管理者について

フォレスパ木曽の指定管理者指定期間が、本年3月31日で満了となるため村が公募を行い審査した結果について説明を受けた。申請団体は(株)あてらと千葉市の(株)塚原緑地研究所の2団体で、審査の結

果、選定基準により(株)塚原緑地研究所を指定管理者の候補者に選定し、審査委員会が村長に答申。今までの経営で発生した負債については、現指定管理者が清算し、指定管理者が変わっても、現在の経営状況から試算すると村からの管理委託料が年間2500万円程度必要との説明もあった。

委員からは、施設運営や住民サービスに支障

▼平成28年度村事業計画について

産業振興課、建設水道課の事業について担当者より説明があった。大桑橋建設工事に着手する。

(報告者 沼 友行)

木曽広域連合 議会報告

新ごみ処理施設

建設工事に着手

◎2月29日開催

第1回定例議会は、

条例改正14件、補正予算2件、28年度一般会計及び特別会計予算等が上程され、審議の結果、全て原案通り可決した。

平成28年度一般会計当初予算は、新ごみ処理施設建設工事に着手



増改築した資料館 多目的室

するため、前年度比12億2386万円増の41億756万円、介護保険特別会計当初予算は、総額41億5823万円でスタートする。

新ごみ処理施設建設工事は、大阪府のエヌエヌ環境テクノロジ株式会社との請負契約について議決した。契約金額は29億8944万円。大桑村の負担金額は、2年間で3億899万9千円となる。

(報告者 木戸勘二)

松塩筑木曾 老人福祉施設 組合報告

◎2月17日開催

2月定例会は、平成28年度一般会計予算を主な議題として審議し原案通り可決した。

予算規模は47億3800万円で前年度対比、2・7%の増となった。

歳入は、サービス収入のうち、施設介護、短期入所を合わせた特別養護老人ホーム部門で、介護報酬改定の影響により前年度を下回る予算額となった。

歳出では介護職員の人材不足が深刻化する中、人材育成を柱とした人事評価制度の導入や施設の老朽化対策など、今後の組合運営を見通す中で必要な予算を計上した。

(報告者 細田光二)

基本計画(素案)を承認

◎2月19日
新庁舎の規模、機能について

中央公民館、須原地区館、野尻地区館、保健センター、体育館会議室の利用状況について資料の提出を求め、担当者から説明を受け質疑応答を行った。
また、基本計画(素案)の提出を受け説明を求めた。
計画案は新庁舎の規模と機能、アクセス道路と公共交通等について整理し、建設計画では、建築延べ床面積を3000㎡と想定し概算総事業費15億円、うち3億円を特定財源として見込むことが示された。

◎3月16日
大桑村庁舎建設基本計画(素案)について

新庁舎の配置、規模と機能、アクセス道路と公共交通、建設計画等について意見交換を行った。
新庁舎の建設計画の設計手法では、設計者との協働で設計を進めることができる「プロポーザル方式」を採用することとし、技術力、経験、取組体制等幅広い判断基準から、7社ほどを指名し、その中から優れた「設計者」を選出するとの説明を受けた。
示された大桑村庁舎建設基本計画(素案)の内容について全員一致で賛成し「基本設計」の策定に移行することを了承した。

基本計画(素案)で示された建設計画概要

- (1) 建設予定年度 平成32、33年度
- (2) 建築延べ床面積 3,000㎡程度
- (3) 概算事業費 15億円程度
(内特定財源 3億円
庁舎建設基金積立目標 10億円)

一般質問

議員8人が村政を問う

本定例会から質問時間を1件30分から1人40分に

3月定例会の一般質問は14日に8名13件を行いました。
次ページより、質問議員が要約したものを掲載します。

一般質問とは

一般質問は、村が行うすべての事務や事業に関して何でも質問できる大事な議員活動の場です。
年4回の定例会のみで、臨時会ではできません。

・質問時間は40分

大桑村議会では、議員が質問できる時間は答弁を含め1人40分以内です。

・一問一答方式

質問は、一つ質問をして一つの回答を得る一問一答方式です。

この方法は、より問題を深められる方法といわれています。

・事前通告

質問したい議員には、前もって質問内容を記した事前通告書の提出を義務付けています。

質問



水野 進 議員

今後への展望を踏まえた施策の推進について

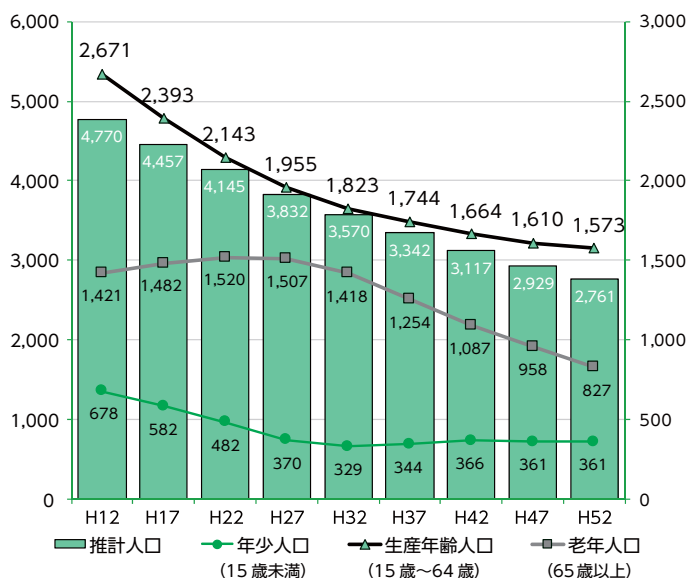
確実な計画管理の下、目標達成を目指す

意見 日本の総人口は、初めて減少に転じた。

大桑村は、平成22年から5年間で313人減少し、3832人となった。（図参照）25年後の平成52年は、約2500人となり、30歳代以下の各年齢層人口は、15人〜20人と推測される。一方で、この年代の人達が使う新庁舎の建設事業が進んでいる。次世代に過不足なく繋げる施策が求められている。

Q 今後の大桑村の情勢と生じる問題は何か。
A 高齢化、年少・生産年齢人口の減少、社会保障・福祉費の増大、移動手段確保の困難、集落機能の低下、空き家・耕作放棄地の増大、地域文化の消滅等が考

大桑村まち・ひと・しごと総合戦略 人口推移



えられる。

Q 対応の基本方針は。

A 平成52年の目標人口を2760人とする「総合戦略」を策定し、出生数の減少や若者の村外流出等を抑制

し、目標達成を図る。

Q 無駄排除、事業規模適正化等を考慮すべきと思うかどうか。

A 総合戦略も行政評価並みに検証・改善する。

ゴミ収集の改善を

意見 要介護者増加を見据え、介護ゴミ収集処理に改善が必要と思う。

Q 介護ゴミは、可燃ゴミ扱いと思うが、収集上の要望はないのか。

A 可燃ゴミの扱いである。保管時の臭いの問題は聞いている。

Q 夏場1週間分の保管は大きな負担となる。改善できないのか。

A 処理能力上、困難である。村は、介護用オムツ購入補助制度で、申請時に使用済みオムツの捨て方や臭い対策のパンフレットを配布している。臭いが漏れにくい市販ゴミ袋活用も考慮する。

意見 郡内共通問題で

あり、新焼却炉建設の折、是非、改善をお願いする。

Q 集合住宅居住者のゴミ出し迷惑防止のため、管理者に、専用集積場所設置と居住者への指導徹底を図る措置が必要と考えるかどうか。

A 収積場所の設置が通例で、集合住宅建設の場合、管理者には、先ず村に相談してもらう。ルールの徹底は、管理者に協力を求めたい。



ゴミステーション



鈴木 武 議員

Q&A 村政を 問う

一般



議員と語る会 和村分館

Q 平屋建て延べ床面積3千㎡、総事業費15億円程で庁舎と複合施設を建設する基本計画素案が示された。建設単価は、1㎡40万円である。当村の財政規模、人口数を勘案した上で、身の丈の建物と考えているのか。

A 規模等を検討する中で住民の意見を伺い、複合施設機能を持った多目的に利用できる必要最小限の施設であると理解している。

Q 基本計画の段階で、明確な財源計画が示されていない。財源計画が示されない中で、基本設計費用1500万円の予算計上は、時期尚早ではないのか。

A 年度中の収支のやり繰りで調整したい。



現在の役場事務室

ていない段階で明確な財源計画は提示できない。労務費や建設資材費等の変動も懸念され誤差が大きいか。住民の意見を反映させるためにも設計案を早く示す必要があると考える。

Q 平成32年度に建設着工を予定し、建設基金の目標額を10億円としている。28年度から毎年1億円の基金積立てが必要であるが、来年度も例年通りの5千万円である。これで目標額に達するのか。

A 施設を機能的に活用するためには、庁舎と併設することがトータル的に望ましいと判断した。

Q 機能的で効率的な庁舎となれば、将来の職員数に関して合理化計画にも触れる記述が必要ではないか。

A 地方分権により市町村独自の政策立案や職員に求められるニーズが多様化し、増える要素も含んでいる。

庁舎の規模・金額は身の丈に合ったものか
住民の意向を反映し複合施設としたため

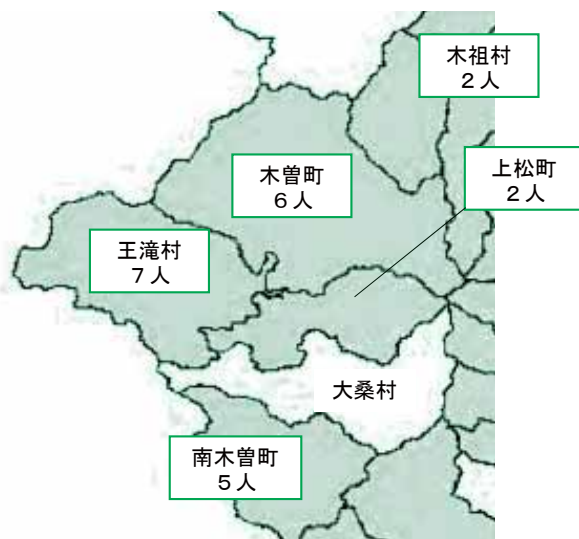
質 問



木戸 勘一 議員

総合戦略の活力で地域おこし協力隊の導入を 導入を図りたい

地域おこし協力隊 木曽郡内町村受入れ状況



Q 大桑村まち・ひと・しごと総合戦略が策定されたが、村の課題と人口減少対策は。

A 大桑村人口ビジョンで25年後の目標人口を2760人とし、基本目標として①資源を活用した雇用創生、②移住等、人の流れを生

む情報発信、③結婚・出産・子育てが安心してできる環境整備、④充実した社会基盤整備を掲げた。

Q 少子化対策として、若い世代が子どもを産みにくいという状況に

対し、村は保育料軽減・給食費無料化や出

産祝金等手厚い支援をしている。今後の見通しは。

A 子育て支援の間接的な応援として、若い世代の負担軽減策を今後進める。

Q 八十二銀行等が取り組む地方創生サポート事業があるが、村はサポートを受ける用意はあるか。

A 現在、サポートの依頼は考えていない。

Q 村の移住対策として昨年実施した「おためし居住」事業の今後の対応は。

A 28年度は、期間を7月から10月までとし、場所は和村上の教員住宅を計画している。1週間程度の滞在期間の中で、大桑村への移住に結びつきたい。

Q 前回の応募が2組のみであった。募集するにあたり、情報発信の1つの考えとして、道の駅に「大桑村の魅力展示コーナー」を設置するなど、工夫すべきと思うが。

A 募集は全国情報誌への掲載、チラシ配布、村のホームページや移住情報サイトにも登録する。道の駅への展示

は現在考えていない。

Q 大桑村過疎地域自立促進計画では、地域おこし協力隊の積極的な活用をにかけているが、その状況は。

A 村が地域おこし協力隊に何を求めるかが課題であるが、地域の担い手、後継者の育成等、総合戦略と連動し導入を図りたい。



おためし居住体験実施
和村上教員住宅



細田 光一 議員

Q&A 村政を 問う

一般

基本設計は1年棚上げし住民の声を反映せよ 計画通り進めたい

Q 旧大桑小学校に新庁舎を建設するという
ことで、住民からはア
クセス道路や駅からの
交通手段の心配の声が
出されている。建設地
を変更できないのか。
A 変更はできない。
Q 基本構想では、想
定人口3500人、職
員数65名としているが、
国の人口推計は204

0年に2500人で千
人の開きがある。想定
人口を再検討し、庁舎
の建設面積を適正規模
に修正すべきではない
か。
A 人口減少に比例し
て職員数は減るとはか
ぎらない。又、人口規
模によつて単純に決め
られるものではない。
行政に支障のない最小



中央公民館（手前）と
保健センター（奥）

限の機能を検討し面積
を出している。
Q 教育委員会と保健
センターを併設するメ
リットは。
A 住民の利便性の向
上と行政の効率化。
Q 地区館を最大限に
活用し、施設を分散し
たほうがリスクも分散
するのではないか。
A 地区館は地域で十
分機能させ、避難所な
どは機能分散すべきだ
が、建設する新庁舎は
防災の拠点としての機
能を担保するものであ
る。
Q 住民アンケート調
査を実施し民意の確認
をすべきと思うが考え
は。
A 住民代表の検討委
員会、議会、明日を語
る集いなどで意見を聞

いてきた。アンケート
の実施は考えていない。
Q 新年度予算に基本
設計委託料が計上され
ているが、1年棚上げ
しても住民の声を聴
くべきではないか。
A 住民の意見を基本
計画としてまとめた。
基本計画案のパブリッ
クコメントを実施し、
28年度中に基本設計に
移りたい。



太陽光パネル
設置予定の山林

**林地開発に対する
意見書について**
Q 民間業者の太陽光
パネル設置における林
地開発行為に対する意
見書を県に提出したが、
村は林地開発行為に同
意したということか。
A 森林法に基づく意
見書を県に提出した。
意見書には安全対策を
講ずることを求める意
見を明記した。

質 問



大前今朝男 議員

村営で木質バイオマス発電を始めるべき

村財政では難しい 木曾全体で検討を

**人口減少に対する
実際の計画は**

Q 26年度からの総合

計画の中でも人口の減少対策は重点項目であるが、現在まで住宅政策以外これといった政策がとられていない。来年度からの実施計画はあるか。

A 28年度からの総合戦略の中で各分野を総合的にとらえて計画実行していく。

企業の存続について保護政策は

Q 村には優良企業があるが、今後の世界状況の変化がある中でこの企業が業務縮小、拠点整備などにより大桑村を離れるということも考えなければならな

中尾平工場団地



い。対策は取っているか。

A 今回、和村工場団地内の村有地を企業に売却し工場立地に関する規制緩和等の優遇措置を取っている。

Q 全国的に地方自治体が建設業の公契約条例を締結してきている

村の建設公共工事も年々減少してきていて村内業者が疲弊していることが考えられるが村の対応はどうか。

A 現在、県ではこの

条例に対応している。

村はまだ対応していないが、賃金に関して国の設計単価により適正に発注している。

木材の有効利用について

Q 村にとって自然エネルギー利用の中で一

番の近道は木材の利用と考える。その中で木質バイオマス発電が脚光を浴びているが、森林の整備、雇用の拡大の面からも木質バイオマス発電の事業化を目指すべきではないか。

A 今後の村の財政を考えると、厳しいものがある。村単独ではなく木曾全体の問題として検討すべきものと考ええる。

**プロジェクトの
発足を**

Q 人口減少問題は村

にとって喫緊の問題だが現在の行政の体制ではこの問題に対して有効な対応が取れていな

い。専門の部署を設けて対応すべきと考えるが。

A 職員数を増やすことには反対意見がある。今までもこの体制で対処してきた。今後も今の体制で対処していく。



議員と語る会 西分館



古畑 昌夫 議員

Q&A 村政を 問う

一般

Q 安倍内閣の「地方創生計画」には、人口減少や地方が衰退する原因の分析がない。国のあり方が問われているのではないか。

A 地方としては、これまででもできることはやっており、木材などの資源を有効に生かしていく必要がある。

Q 高齢化とともに、格差と貧困が進んでいる。介護制度の充実と雇用の確保のために、介護従事者の処遇の抜本的な改善が強く求められるのではないか。

A 高齢者や子育て世代にも格差と貧困が現れており、村だけでなく国にも改善を求めていく必要がある。

Q 地方の再生と国土の保全のためにも、原



視察した設楽町庁舎の
チップボイラー

発依存ではなく、バイオマスなど自然エネルギーの活用が不可欠ではないか。

A 原発に対する世論調査があり、「原発を減らす」に回答した。

Q 新庁舎やあてら荘にチップボイラーの導入を検討し、木曽全体の自然エネルギーの開発を検討する必要があるのではないか。

A 木曽郡の山林協会長を務めているので、調査・研究機関の設置

を提案したい。

Q 地元の建設事業として、県や国にきめの細かい治山・砂防事業を働きかける必要があるのではないか。

A 直轄砂防事業は、南木曽の災害で多少遅れたが計画通り行われる。県の事業として和村の大沢に砂防工事が予定されている。

Q 大桑橋の工事の財源の裏付けはどうか。

A 旧橋の撤去も含め19億円ほどになり、国

庫補助65%と過疎債を予定している。

Q 増改築した資料館で殿の文化財の録画を視聴できないか。

A 4月から三宅氏の絵画展、コンサート、

中学生の作品展などを計画する。殿の文化財の視聴は検討する。
意見 中学生や子どもたちに夢をもてる村づくりが求められる。



調査測量に入る和村大沢上流

木曽の自然エネルギーの本格的な導入の検討を

調査・検討機関の設置を提案したい

般 質 問



瓜尾美佐子 議員

村づくりに文化をどう位置づけていくのか

若者定住や子育てにとっても、豊かな人材育成のためにも
文化的環境をつくっていく



6年生3月議会傍聴

Q 公職選挙法の改正

で選挙年齢が18歳に引き下げられ、7月の参議院選挙から実施される。村での新有権者数と投票への働きかけは、

A 新たに対象となる

のは、18歳が46名、19歳が41名である。郡内高校では夏までに模擬投票などの対応をする

ことになっている。村独自で高校生にリーフレットを配布し、周知していく。

Q 主権者教育が重要な課題として注目されているが、現状の取り組みと基本的な考え方は、

A 義務教育の段階では、文科省の学習指導

要領に基づいてやっていく。議会傍聴や新聞を活用した学習などが自治意識の基礎を学ぶことになっていくと考えている。

Q 今、日本の社会は

これからの国のあり方をめぐり激動期にある。こういう時だからこそ暮らしを取り巻く困難や地域の課題について住民が学び、ともに考え村づくりをすすめるために社会教育の果たす役割が大事だと思うがどうか。

A 若い人だけでなく

村民全体が、今置かれているテーマを学び話し合う機会を作っていく。「明日を語る集い」は自治の実践になっていると考える。

Q これからの村づく

りに文化をどう位置づけていくのか。新しい庁舎に図書館と多目的ホールを備えることでどんな村づくりを目指しているのか、村民に発信すべきではないか。

A 第5次総合計画の

アンケートで文化・芸術の充実を期待する声は多いと感じている。

若者定住や子育て環境は文化活動の環境レベルの高さにある。

成熟した自治体とはハードなインフラだけでなく村民の心のゆとりが加わってこそだと考えている。豊かな人材育成のためにも文化的環境をつくっていく。



資料館コンサート (4月16日)

Q&A 村政を問う



沼 友行 議員

人口減少対策としての結婚支援策は 村として何らかの支援策を検討

Q 若い人が結婚できる施策を考えなければ、少子化対策の一步ができていないと思うが。

A 社協に委託し実施している結婚相談事業は16年間で21組の成婚の実績があるが、現在は相談者も減り事業が困難な状況である。村内で新たな結婚支援事業を展開したい事業者

があればバックアップしたい。

Q 他の市町村の例として、湯沢市では「ゆざわハッピーサポート協議会」を立ち上げ婚活イベントを計画。千歳市は「子育てするなら千歳で」と、妊娠、出産、子育てまでの切れ目のない支援をし、この5年間で人口が約

1600人増加している。又、塩釜では「しおde愛セミナー」を開催し、若者の出会いを作っている。大桑村でも婚活イベントを開催できないか。

A 若者の出会いの機会が少なくなっているのは確か。村としても何らかの支援策を考える。

Q 人口減少を食い止める施策として新たに村営住宅を建設する考えはないか。

A 需要のバランスを考え建設の検討をしていきたい。28年度に村営住宅の適地調査を実施する。

Q 新たに企業誘致をする考えは。

A 中尾平工場団地を

整備し既存の企業の留置に努めるとともに、右岸道路の開通で立地条件も良くなるので、新たに工場団地をどうするかを検討していく。



行政報告

満寿太橋、殿大橋

通行規制

2月1日、総重量10tを超える車両の通行制限を開始。

住民監査請求への

対応状況

山林境界画定について松本市の弁護士を代

木曽ふれあいの郷

指定管理

理人とし委任契約を締結。現地調査、関係者への事情聴取を行い、相手方との協議を重ねたが不調に終わり、12月18日土地の境界画定の件について相手方企業を被告として長野地方裁判所松本支部宛訴状を提出した。

ウッドスタート事業

平成28年度から1歳の誕生日を迎える子どもに地元産の木のおもちゃを贈る事業を始める。

木曽川右岸道路境の沢

トンネル工事着工

2月22日境の沢トン

ネルの安全祈願祭が行われた。全長337m。平成28年8月の完成を目指す。

民間事業者による

太陽光パネル設置の件

川向地区における太陽光パネルの増設について、林地開発行為及

び砂防指定地内設置申請に対し、関係機関との協議、緑地の維持管理に関する協定の締結、施工時の安全対策、積雪に対する安全配慮、地元住民の理解を得る等とした意見書を県に提出した。

議員と語る会

15会場に117人が参加

意見・提案を要約し掲載します。

庁舎建設と村づくりについて

沢山の提案をいただきました

1月23日から2月7日にかけて開催した議員と語る会に寒い中、117人の皆さんが声を届けてくださいました。これからの議会はチェックのみでなく提案できる議会としての自立が期待されています。皆さんの大切な声を無駄にしないよう活力ある村づくり、地域づくりに一層尽力します。

大勢の参加が私たちの励みになりました。感謝を申し上げます。

(議長 岩佐孝和)

庁舎建設について

規模・機能

- 大桑らしいの庁舎のあり方を検討すべき。
- 人口減少も考え、将来に負担をかけないような規模や機能を考えるべき。
- 分散した機能をまとめ、ワンストップサービスを実現し高齢化に対応してほしい。
- 人口減少を考えると集中的な場所が必要。分散していると効率が悪く、維持費もかかる。
- 高齢者のコミュニティの場所としても新庁舎がその拠点となるよう検討してほしい。

- 防災の拠点としての機能は充実すべき。
- 身の丈に合った庁舎と言うが、人口規模だけで話が進まないようにしてもらいたい。
- あれもこれもと考えていくうちに、身の丈に合ったということのを忘れていきそうだと議会としてしっかりチェックしてほしい。
- 一極集中することで地域の活性化が図れるのか。リスク分散の意味からも機能は分散すべき。

事業費

- これから大型公共事業もあるが予算は心配

ないのか。

- 建物の規模について具体的な検討に入っているのに建設事業費の算定がされていない。事業費を提示してから規模を決めるべき。

検討方法・情報提供

- より良い庁舎ができるよう村民全体を巻き込んで話し合うべき。
- 住民としてどこまで決まっているかなど、具体的なイメージがほしい。
- こまめな情報提供を決まってから出されても困る。
- 住民アンケート調査を実施してほしい。

- 箱モノを作って終わりということが多かったので、その後の活用に重点を置いて検討してほしい。

図書館

- 上松町の図書館の状況を見ると図書館は必要と思う。

- 図書館は情報が行きかう場所であり交流の場。新しい文化が生まれる可能性もある。地域活性化も視野に入れた文化施設や図書館の設置を検討してほしい。
- 図書館は未来への希望だ。人口減少に歯止めをかけるような文化の拠点になるものを望む。

- 高齢化が進む中図書館は本来に必要な。慎重に検討すべき。

- 図書館は役場に併設して建設するのが良いのか議論の余地がある。

多目的ホール

- 大桑は文化ホールがない。それなりのイベントができる大きさのホールがほしい。

- 多目的ホールを建設するということだが、須原・野尻地区館の参加人数を見ても必要があるのかよく検討してほしい。

アクセス道路

- 大桑小学校跡地に建設することは良いと思うが、アクセス道路の整備を先行して検討すべき。

- 中山からのアクセスは危険で事故も多い。大島からは大型バスが通行可能な幅にすべき。
- 高齢化に対応し、公共交通のあり方も同時に検討が必要。

- 国道から庁舎までの案内標記も分かりやすいものにしてほしい。

その他

- 現在の庁舎は老朽化も激しく、増改築を繰り返した建物で、自分たちの大切な情報がいざというとき守れるの

議会活動日誌

12月	活動内容
15日	12月定例会 議会報編集特別委員会
16日	12月定例会 全員協議会
19日	木曽郡議長会
24日	庁舎建設特別委員会 全員協議会・自由討議
1月	活動内容
4日	新年祝賀会
10日	消防団出初式
13日	議会報編集特別委員会 広域連合議会経済観光常任委員会（～14日）
20日	議会報編集特別委員会
21日	郡議長会（東京～22日）
22日	商工会行政懇談会
23日	議員と語る会
25日	議員と語る会
27日	森林環境税創設促進議員連盟 正副会長会議 （東京～28日）
29日	正副議長・正副常任委員長 研修（安曇野市）
30日	議員と語る会
31日	議員と語る会
2月	活動内容
1日	議員と語る会
5日	議員と語る会
6日	議員と語る会
7日	議員と語る会
9日	議会運営委員会 議員と語る会反省会
15日	広域連合議会福祉環境常任 委員会
16日	広域連合議会経済観光常任 委員会
17日	松塩筑木曾老人福祉施設組 合定例会・全協
18日	境ノ沢トンネル安全祈願祭
19日	庁舎建設特別委員会
22日	広域連合議会総務常任委員 会・議会運営委員会
23日	県議長会定期総会（長野）
24日	経済建設常任委員会
26日	総務社会常任委員会 議会運営委員会
29日	広域連合議会定例会
3月	活動内容
3日	大桑村建設事業協力会意見 交換会

か不安である。早く建
て替えをしてほしい。

●庁舎建設より人口問
題、高齢化問題のほう
が優先順位が高い。

●現庁舎は解体するの
か。中央公民館、保健
センターは新しいがど
うするのか。

●JA、商工会、郵便
局も一緒になればよい
と思う。

●太陽光パネルなど、
自然エネルギーも検討
すると良い。

●地元産材を使った建
物にしてほしい。

村づくりについて

地域づくり

●有事の際に指示、伝
達が迅速に伝わるよう
な地域自治組織が必要
だ。

●村内の自治組織の代
表が集まって協議会を
つくったらどうか。

●地域おこし協力隊を
もっと積極的に活用す
べきではないか。

人口減少対策

●村の魅力は豊かな自
然環境と歴史だ。若者
がUターンしてくれる
ような村作りが必要だ。

●人口減少を食い止め
るためには、若い人の

働く場所の確保が課題。

●結婚相談・支援に
もっと力を入れて取り
組んでほしい。

●木曽の高校2校の存
続のために郡全体で県
へ陳情してほしい。

観光

●観光客向けの看板が
少ない。

●村には観光資源がた
くさんある。循環バス
の利用の検討を。

●阿寺溪谷の渋滞は深
刻。観光客から協力を
とってもらいたいのでは。

●あてら荘は新しい経
営者になっても福祉
サービスやバスの運行

など継続して欲しい。

公共交通

●高齢者が免許を返し
たあと利用する交通手
段としてバスの利便性
を望む。

防災・環境

●緊急時の備蓄品を各
分館に配備できないか。

●川向地区に設置され
た太陽光パネルについ
て不安を感じている。

●環境保護も含めての条
例制定を希望する。

農業

●農業の維持と発展の
ためにも協働で経営で
きるような政策を。

●農地について、高齢

になって耕作も困難に
なって来たが圃場整備

したことで宅地に転用
できず、苦慮している。

●中山間地補償も高齢
化で継続が困難になっ
ている。

買い物弱者対策

●高齢化が進むなかで、
買い物弱者への対応も
検討していくべきだ。

●商店が少なくなっ
てきている。なんとかな
らないものか。

議会に対して

●議員はもっと現場に
足を運んで何が問題な
のかを把握し村に進言
してほしい。

●議員定数や議員報酬
について、若い人が議

員になりやすい環境作
りが必要だと思う。

●議員は総合戦略策定
にタッチしておらず、
行政が作ったものを承
認すると聞いて危機感

を持った。議会として
策定の段階から関わる
べきだ。

●議員と語る会をもっ
と開催してほしい。

サークル紹介 第9回

押し花教室

教育委員会に『押し花教室』を開きたいと
お願いしてから、すでに20年を過ぎました。

一緒に始めた郵便局の生徒さんたちも「変
色しない押し花」の魅力を感じ、今まで続け
てきました。

最近、高齢に伴い大作が作りにくいこと
になっていますが、これまでは、県内のコン
クールに出展して見学に行ったり、同好者同
士での親睦も重ねたりして生きがいを感じて
やってきました。

今は、作品作りとおしゃべりが半分半分く
らい。それでも月に一度の教室を楽しみに集
まります。昨年末には、NHKの「はりきり
ご長寿列伝」に出演した生徒さんもいて、長
く続けたご褒美と皆で喜びました。



「生涯を学ぶ」という大きな夢は、まだ半
ばかもしれませんが、あの時一歩を踏み出し
て、草や花を見る目が変わってきたと思いま
す。「押し花が大好き」と目をキラキラさせ
て言う生徒さんがいる限り、私たち2人も頑
張るつもりです。

絵の具のように使うことを教えられても、
思い通りにはいかない。それでも生徒さんた
ちとコツコツ好きなことを続けて行きたいで
す。

(代表 岩田美代子 高橋しげ子)

編集後記

▼3月定例会で平成28
年度予算が議決され、
新年度がスタートしま
した。

▼今回の議会だよりには、1月から2月にか
けて開催した「議員と
語る会」で住民のみな
さんから出されたご意
見をまとめ掲載しまし
たのでご覧ください。

作品紹介 ⑪

與田 和江
(須原出身 多治見市在住)



バッグ・小銭入れ・メガネケー
ス・カードケース・梔のバッジや
ストラップ…パッチワークの作品
作りを楽しんでいます。

▼今、貧困と格差が拡
大する中、住民の暮ら
しへの不安の声が広
がっています。こんな
時だからこそ、真の地
方再生のために頑張ら
なければと決意してい
ます。

▼デザインを一新した
議会だよりをお届けし
ましたがいかがでした

か。村民の声を反映し
た紙面づくりを目指し
ていきますので、ご意
見をお寄せください。

(瓜尾)

委員長 木戸 勘一
副委員長 爪尾美佐子
委員 沼 友行
水野 進

大前今朝男